

言語明瞭, 意味不明瞭

下川 浩

エンゼル病院(北九州市)院長

「言語明瞭, 意味不明瞭」とは, よく政治家の発言を評して用いられる言葉です。しかし, 私たちの周りを見渡すと, 往々にして同様の発言があることに気がつきます。これは, ある特定の集団の中では意味明瞭かおよそのニュアンスの一致をみている特定の言葉が, その集団以外の人々に向かって発せられた時におこる現象のようです。

医療の世界は, 今でもかなり閉鎖された世界です。その医療の中に今, 新しい風が吹いています。それは患者の知る権利, 発言する権利を確立しようという風です。これは医療を受ける側からすればあたりまえのことです。この要求に医療の現場は積極的に対応していく必要があります。その方法の1つは, インフォームド・コンセントに対する理解と実践です。

医療側からいえば, 患者へ病気のこと, 治療のことなどを十分に説明するのですが, この時, 患者にとって「言語明瞭, 意味不明瞭」の事態が発生します。そして, 相手が自分の言葉の意味をほとんど理解できていないこと, まったく違った理解の仕方をしていることを, 話している医療者本人が気づいていないことが多々あるのです。

たとえばこんなことがあります。40代後半の患者と医師との会話です。

医師「これこれこういう理由で子宮筋腫の手術をしましょう」

患者「私も, 月経の時きついでお願いします」
その後, 説明をしていると, 患者「え! 子宮をとるんですか?」

しばらく後, 患者「妊娠できなくなるんですか!」
医師(驚いた顔で)「子宮がなくなれば妊娠できませんよ」

患者「それじゃ, 手術やめます」

患者にとって, 最初の医師の言葉を, 言葉としてわかってもその意味するものが理解できなかった例です。

もう1つの「言語明瞭, 意味不明瞭」の生ずる原因は医学用語の難解さと曖昧さによるものです。曖昧さの1つの例として, 私たちがよく使う「自然分娩」を取り上げてみましょう。よく使われている言葉ですし, 「自然分娩が理想」などと言う女性はけっこういます。

では「自然分娩」とはどんな分娩をさしているのでしょうか。それぞれにイメージがあると思います。でも, よく考えていくとわからなくなっていくきます。自然だから「人為を排した分娩」? 人為を排した分娩など人類が社会を構成して以来存在しないでしょう。「過度の人為を排した分娩」? 「過度」とは?

まあ, あまり深く追求しないほうが世の中丸くおさまるのですが。

では, 別の方向から検証してみましょう。私たちのめざすお産のあり方を「自然分娩」という曖昧な規定で考えていったいいのでしょうか。母親の内在する能力を引き出し, 方向づけすることで母親が納得できる出産をしてもらうことが理想でしょう。その意味では「自力分娩」の方がより表現が正しいのではと思っています。お産では母親と赤ちゃんが主役, 医師・助産婦はあくまで黒子です。

日頃使っている言葉をもう一度内容に合致したのかどうか検証することが, 医療を患者サイドに解放していく第一歩になると思います。

この文章が「言語明瞭, 意味不明瞭」でないといいたいのですが。